

将来像 2



“文教のまちたけはら”の精神を受け継ぎ、地域を支え、
世界中で活躍する人々を輩出するまち

2 目標像

子供たちが夢の実現に向け
挑戦できる環境が確保されている

1 子ども・子育て

- ① 希望する人が結婚・妊娠・出産できる環境づくりの推進
- ② 妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の充実
- ③ 子育て環境の充実

2 学校教育

- ① 地域とともにある信頼される学校づくりの推進
- ② 幼保小連携教育の推進
- ③ 「確かな学力」の向上
- ④ 「豊かな心」の育成
- ⑤ 「健やかな体」の育成
- ⑥ 充実した教育環境づくり



1 子ども・子育て

10年後の
目指す姿

市民の結婚・妊娠・出産の希望実現のための支援体制が整っている 安心して楽しく子育てができる環境が整い、 子供たちが健やかに成長している

現状

- 結婚のサポートとして、経済的な不安が婚姻率減少の要因の一つとなっている状況を踏まえ、令和3（2021）年度から結婚に伴う住宅費用等を支援しています。
- 本市の合計特殊出生率*は横ばいで、周辺市町と比較すると低くなっています。
- たけはらっこネウボラ*を設置し、妊娠期から子育て期までの切れ目のない包括的な支援を市民の子育てニーズに即して行っています。
- 本市には、分娩取扱施設はありませんが、市内の医療機関で妊婦健康診査を受けられ、市外の分娩取扱施設と連携し、安心して出産できる体制づくりに努めています。
- 全国的に核家族*化が進行し、地域のつながりも希薄化するなど、祖父母や近隣住民からの子育て支援を受けることが難しい環境になってきており、子育ての不安や経済的な負担、育児に対しての孤立感を抱える保護者への支援が求められています。
- 都市部を中心に、保育所待機児童が発生し、社会問題化していますが、本市は、待機児童数ゼロを実現しています。
- 本市では、認定こども園* 8園、放課後児童クラブ* 10教室に加え、ファミリーサポートセンター*や地域子育て支援センターなどによる地域全体で子供を守り育てる体制づくりを推進しています。
- スマートフォン等が急速に普及し、利用者の低年齢化が進み、SNS*に起因した事件などのトラブルに巻き込まれる青少年の増加、有害情報に触れる機会が増大しています。

課題

- 少子化の原因とされる若者の未婚率の上昇、晩婚化、晩産化*を抑制していくための取組が必要です。
- 市内在住で結婚を希望する人の婚姻率を向上させるためには、結婚支援に関する情報の提供や結婚後の不安を軽減するなど、結婚への後押しが必要です。
- 妊娠や出産、子育てに対する不安や悩みに対応し、支援体制の継続的な確保が必要です。
- 県内の分娩取扱施設は減少傾向にあります。子供を安心して出産できるように、市内の医療機関と市外の分娩取扱施設との連携の強化が必要です。
- 子育てに時間的、体力的、精神的にゆとりを持ちづらい家庭が多く、子育て家族に寄り添ったきめ細やかな支援と地域全体で支える取組が必要です。
- 子供の健やかな成長を図るため、子供と保護者の健康の保持増進に加え、学び・体験の場の引き続きの確保が必要です。
- 保育士などの人材不足が年々深刻化しており、保育サービスを維持するためにも、人材不足への対策や業務の効率化など、保育を取り巻く環境に即した対応が必要です。
- 放課後児童クラブの利用状況や小学校の適正配置の方向性を踏まえ、放課後児童クラブのあり方の検討が必要です。
- 子育てに対する経済的負担を軽減するための支援や支援を必要とする子育て家庭への対応が必要です。
- 青少年の健全育成のためには、家庭、学校、地域、事業者の連携した環境づくりが必要です。

竹原市の強み

- 結婚に伴う住宅費用等の支援
- 待機児童数ゼロの市内こども園等
- たけはらっこネウボラなど妊娠期から子育て期まで、家族に寄り添った伴走型相談・支援体制の実施
- 延長保育など多様な働き方に対応した保育サービス
- 保育士の確保・定着のための支援

成果指標

成果指標名	現在の値 (R4)	最終目標 (R10)
妊娠 11 週以下での妊娠の届出率 (%) (年度)	93.3%	現状維持
たけっこダイアリー (母子手帳アプリ) の妊婦 及び就学前の乳幼児の登録率 (%) (年度)	31.4%	71.4%
この地域で子育てしたいと思う親の割合 (%) (年度)	98.8%	現状維持
認定こども園* 待機児童数 (人) (各年 4 / 1 現在)	0人	0人
放課後児童クラブ* 待機児童数 (人) (各年 5 / 1 現在)	0人	0人

取組の方向性

① 希望する人が結婚・妊娠・出産できる環境づくりの推進

- 結婚を希望する若い世代を後押しするため、結婚支援に関する情報の提供を行い結婚や結婚後の不安を軽減するなど、結婚を望む人たちを応援する機運を醸成します。
- 希望する誰もが子供を産み、育てることができるように、様々な不安要因の軽減と解消に向けた支援を行います。
- 安心して妊娠・出産に臨むことができるよう、早期に妊娠の届出をするよう周知に取り組むとともに、引き続き市内の医療機関と市外の分娩取扱施設との連携体制の強化に取り組みます。

主な取組

- 結婚支援に関する情報提供
- 結婚に伴う住宅費用等の支援
- 妊娠・出産の不安の解消を図るための相談対応や情報提供
- 早期の妊娠届出を勧奨するための周知
- 妊婦健康診査を行うための施設設備費及び運営費の補助
- 市内の医療機関と市外の分娩取扱施設との連携 など

② 妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の充実

- たけはらっこネウボラ*と児童福祉の相談機能を一体的に行う「こども家庭センター」を設置し、相談窓口等の周知を図り、子育て家族に寄り添い、子供の良好な生育環境の確保など妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援体制の強化を図ります。
- 妊産婦、乳幼児に関する保健事業を充実させ、子供や保護者の心身の健康増進を図ります。
- 乳幼児等医療費助成や保育料の多子軽減などの子育てに関する経済的負担の軽減や、ひとり親家庭等に対する相談・支援体制の充実を図ります。

主な取組

- 妊娠期から子育て期までの伴走型相談・支援体制の充実
- デジタルを活用した子育て支援に関する情報発信の充実
- 保健指導や健康診査などによる保健事業及び食育の推進
- 子育て家庭への経済的支援
- ひとり親家庭や子育てに困り感を抱える家庭への相談・支援体制の充実 など

③ 子育て環境の充実

- 多様な働き方に応じた保育ニーズを的確に把握し、ニーズに対応した保育を提供します。
- 乳幼児や小中学生・高校生の異年齢交流、地域子育て支援センターなどの活動を通じた自然体験や社会体験など、子供の学びと体験の場の確保と充実を図ります。
- 家庭、学校、地域、事業者が連携・協働し、見守り活動や有害環境対策に取り組み、青少年が健全に成長できる環境を整えます。

主な取組

- 認定こども園*や放課後児童クラブ*、病児・病後児保育等の地域における子ども・子育て支援事業の充実
- 様々な子育て関連事業による自然体験などの体験活動の推進
- 関係機関と連携した見守り活動など

関連する 分野別 個別計画

- 第3次健康たけはら21 令和6～令和17(2024-2035)年度
- 第2期竹原市子ども・子育て支援事業計画 令和2～令和6(2020-2024)年度
- 第3次食育推進行動計画 令和6～令和17(2024-2035)年度



乳幼児健康診査



たけっこダイアリー
(母子手帳アプリ)



たけはらっこネウボラ*



たけのここども園



子供の製作活動（児童館）



親子の自然体験活動

2 学校教育

10年後の
目指す姿

夢をもち、社会を主体的に生き抜く ことが出来る人材を育成している

現状

- 本市では、校長を中心とした体制のもと、地域とともにある学校づくりを進めています。
- 広島版「学びの変革」アクション・プラン（平成26（2014）年度策定）により、これまでの知識ベースの学びに加え、社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学びを推進していくことが示され、令和3（2021）年度からの3年間を第Ⅲ期とし、授業改善等に取り組んでいます。
- 通常の学級、特別支援学級、通級指導教室という多様な学びの場の必要性が増しています。
- 核家族*化等により、ライフスタイルや社会状況の変化など子供たちを取り巻く環境が大きく変化しています。
- コロナ禍の影響から、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化や、体力に課題がある児童生徒がいます。
- スマートフォンやゲーム機等インターネットに接続できる機器が普及し、生活習慣の乱れやSNS*等の利用による様々な問題が生起しています。
- 本市では、少子化により、児童生徒数が年々減少しており、学校の適正規模が保ちにくくなっています。
- 幼保小が連携し、お互いの教育・保育を見通して、育ちと学びを連続させていく実践を工夫しながら、幼児期の教育課程と児童期の教育課程の円滑な接続に取り組んでいます。

課題

- 子供を育てていくためには、学校・家庭・地域の十分な連携のもと、協働的に取り組んでいくことが必要です。
- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、習得した知識や技能を活用出来る力の育成が必要です。
- 多様な学びの場の充実を図り、児童生徒一人一人の障害の状態や困り感、発達段階に応じたきめ細かな指導や支援が必要です。
- 子供たちを取り巻く環境の変化に対応するため、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たした体験活動の充実による、豊かな人間性や社会性、道徳性の育成が必要です。
- 食育計画や体力づくりの計画を作成し、健康教育や食育、体力づくりを充実させ、心身ともに健やかな児童生徒を育成していくことが必要です。
- 教育環境の整備のために、学校規模の適正化が必要です。
- 国が示す第4次教育振興基本計画のコンセプト「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイング*の向上」に沿った取組が今後求められます。
- 適正配置懇話会が実施した保護者アンケートでは、学校教育への満足度は高いが、市民を対象とした総合計画のアンケートでは満足度は低いいため、学校教育の取組について、周知・啓発が必要です。

竹原市の強み

- 地域と学校の密接な連携・協働体制
- 幼児期の教育（認定こども園*における教育）と児童期の教育（小学校、義務教育学校における教育）の充実した連携体制（充実した幼保小の連携体制）
- 一定のスキルを持った教員によるICT*活用教育の全市展開
- 栄養教諭を活用し、充実した食育の取組

成果指標

成果指標名	現在の値 (R5)	最終目標 (R10)
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合 (%) (年度)	69.8%	80.0%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思える児童生徒の割合 (%) (年度)	83.6%	90.0%
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (%) (年度)	77.2%	80.0%
基礎学力が定着している児童生徒の状況 (全国学力・学習状況調査の広島県との差を平均したもの) (ポイント) (年度)	【小学校】 国語 1.6P 算数 0.1P 【中学校】 国語 ▲0.4P 数学 0.9P	【小学校】 国語 2.0P 算数 1.0P 【中学校】 国語 1.0P 数学 1.0P
新体力テストの広島県の平均以上の種目の割合 (%) (年度)	【小学校】 89.0% 【中学校】 59.3%	【小学校】 90.0% 【中学校】 65.0%

取組の方向性

① 地域とともにある信頼される学校づくりの推進

○学校運営に地域の声を活かす仕組みである学校運営協議会制度を充実させるとともに、法規法令に則った学校運営及び主体的で協働的な創意工夫のある、特色ある教育活動を通して、「地域とともにある学校づくり」を推進します。

主な取組

- 学校の自主性・自立性の確立
- 人材育成の推進
- 学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 など

② 幼保小連携教育の推進

○幼保小が連携し、育ちと学びを連続させるための取組を実践します。

主な取組

- 竹原市幼保小連携推進協議会の設置・推進
- 幼保小接続カリキュラムの編成・実施
- 認定こども園*及び小学校・義務教育学校の各担当教員を対象とした合同研修会の実施 など

③ 「確かな学力」の向上

○グローバル化する社会を生き抜く力を身につけさせるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した教育活動を実践します。

主な取組

- 基礎学力の定着・向上
- 主体的な学びの創造
- ICT*活用教育の推進
- 特別支援教育の推進
- 授業改善の推進 など

④ 「豊かな心」の育成

○豊かな人間性や社会性を育むために、体験活動や道徳教育を充実させるとともに、社会の中で自分らしく生きるための資質・能力を育む教育活動を実践します。

主な取組

- 体験活動の充実
- 道徳教育の充実
- 生徒指導の充実
- 伝統・文化等に関する教育の推進
- キャリア教育*の推進 など

⑤ 「健やかな体」の育成

○生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う教育を推進します。

主な取組

- 健康教育の充実
- 体力づくりの充実
- 食育の推進 など

⑥ 充実した教育環境づくり

○学校規模の適正化等を推進します。

主な取組

- 小中一貫教育の推進
- 学校の適正配置 など

関連する
分野別
個別計画

- 竹原市教育大綱 令和6～令和10(2024-2028)年度



学校と地域との協働的な活動



園児と児童の交流活動



学校図書館を活用した学習